

米子工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	デザイン基礎 I	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	建築の図法（明現社） 長谷川 道明						
担当教員	小椋 弘佳						
到達目標							
1. 正投影図法、アイソメ、カビネ、ミリタリ図法で簡単な図形が描ける。 2. 平行透視図法、有角透視図法で簡単な図形が描ける。 3. 簡単な図形に陰影を施すことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	正投影図法、アイソメ、カビネ、ミリタリ図法で複雑な立体を描くことができる。			正投影図法、アイソメ、カビネ、ミリタリ図法で複数の直方体程度の立体を描くことができる。		正投影図法、アイソメ、カビネ、ミリタリ図法で直方体を描くことができない。	
評価項目2	平行透視図法、有角透視図法で複雑な立体を描くことができる。			平行透視図法、有角透視図法で複数の直方体を描くことができる。		平行透視図法、有角透視図法で直方体を描くことができない。	
評価項目3	複雑な立体に陰影を施すことができる。			直方体に陰影を施すことができる		直方体に陰影を施すことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A							
教育方法等							
概要	建築の図法を一通り学ぶ。内容は平面図法、正投影、軸測投影図法、斜投影図法、透視図法、陰影図法である。						
授業の進め方・方法	教科書は参考書程度の扱いとし、主に配布プリントで説明と演習を行う。プリントは各回、平均5枚程度を配布する。授業中に作図しきれなかった分は宿題とする。						
注意点	作図法は手を動かして実際にやってみなければ習得できないので、演習が基本となる。質問は随時受け付けるので山田研まで来てください。朝（8：00－8：50）、昼休み（12：00－12：50）ならほぼ常に在室しています。放課後は会議の無い日の18：30まで可能。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	修学ガイダンス		建築の図法の概要		
		2週	道具の使い方、平面図形1		定規・コンパスの使用方法を理解する。直線や曲線を描くことができる。		
		3週	平面図形2		多角形などを描くことができる。		
		4週	正投影図法 平面図立面図		直方体などの平面図と立面図が描ける。		
		5週	正投影図法 側面図		直方体やその組み合わせた図形の平面図、立面図、側面図が描ける。		
		6週	正投影図法 応用演習		正投影図法を用いたやや複雑な図が描ける。		
		7週	軸則投影1		アイソメ図が描ける。		
		8週	前期中間試験		前期中間までの内容を理解すること。		
	2ndQ	9週	軸則投影2 応用演習		アイソメ図が描ける。		
		10週	斜投影 カビネ図法		直方体などをカビネ図法で描ける。		
		11週	斜投影 ミリタリ図法1		直方体などをミリタリ図法で描ける。		
		12週	斜投影 ミリタリ図法2 応用演習		ミリタリ図法で街区の図を描ける。		
		13週	平行透視図1		直方体などの平行透視図が描ける。		
		14週	平行透視図2		複雑な物体の平行透視図が描ける。		
		15週	前期末試験		前期末までの内容を理解すること。		
		16週	学年末までの復習 平行透視図3		学年末までに習った内容について、自らの課題を認識し修正できる。 室内透視図が描ける。		
後期	3rdQ	1週	有角透視図1 簡単な立体		有角透視図で直方体などを描ける。		
		2週	有角透視図2		複雑な立体を有角透視図で描ける。		
		3週	測点法1		測点法で直方体などを描ける。		
		4週	測点法2		やや複雑な立体を測点法で描ける。		
		5週	測点法3		かなり複雑な立体を測点法で描ける。		
		6週	測点法4		非常に複雑な立体を測点法で描ける。		
		7週	後期中間試験		後期中間までの内容を理解すること。		
		8週	陰影図法		点、線、面の陰影の作図ができる。		
	4thQ	9週	投影法に関する応用演習 事例調査1		投影法の活用法を知る。		
		10週	投影法に関する応用演習 事例調査2		投影法の活用法を知る。		
		11週	投影法を用いた作品制作 1		投影法を用いてオリジナルな作品を制作することができる		
		12週	投影法を用いた作品制作2		投影法を用いてオリジナルな作品を制作することができる		
		13週	投影法を用いた作品制作3		投影法を用いてオリジナルな作品を制作することができる		

		14週	投影法を用いた作品制作4	投影法を用いてオリジナルな作品を制作することができる
		15週	学年末試験	学年末までの内容を理解すること。
		16週	学年末試験までの復習 作品発表	学年末までに習った内容について、自らの課題を認識し修正できる。 作成した作品についてわかりやすく発表することができる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、使用できる。	2	前2,前8
				線の描き分け(3種類程度)ができる。	2	前2,前8
				建築の各種図面の意味を理解し、描けること。	1	前4,前5,前8
				立体的な発想とその表現(例えば、正投象、単面投象、透視投象などを用い)ができる。	2	前6,前7,前9,前10,前12,前16,後1,後4,後8,後9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0